

大学院修士課程における アドミニストレーター養成の 現状と課題

——桜美林大学の場合——

内田 晚穂

うちだ・くれほ

東海学院大学・教務部
一九六四年、愛知県生まれ

■ 現状

現状のカリキュラムと
その特徴

最初に、カリキュラムと学習の進め方など現状を、その後で私なりに考えた問題点や課題について述べたいと思います。それから、桜美林大学だけではなく、名古屋大学、名城大学、広島大学といったところとの連携、今後の課題を私なりにまとめていきたいと思えます。

まず、カリキュラムですが、表1が二〇〇六年度の通信制のカリキュラムです。設置の関係もあるのでしよう、担当者が入っていますが、若干変わることもあります。昨年から変わったのは一、二名だけです。表2は通学制のカリキュラムです。

修了要件は、教育系と経営系のコア科目をそれぞれ四単位ずつと専門科目十六単位以上、研究指導六単位、修士論文または研究成果報告の提出です。修士論文と研究成果報告の違いは枚数の違いです。修士論文を選択する場合はこの単位数でいいのですが、研究成果報告の場合は二単位余分に取らなければいけないことになっています。

次に、カリキュラムの特徴ですが、非常に多彩な科目が配置されています。通信制ということでスクーリングがあるのですが、非常に時期が限られるということ、あるいは、東京という土地柄、非常に多彩な科目が配置されていること、コア科目が二系列に分かれていること、先行してできた通学制がここが未分離だったので、その反省に立って作ったそうです。それから、修士論文、研究成果報告を選択できること、字数、内容などに違いがあります。一応修士論文のほうの内容があるということになっていますが、実際はそんなに変わらないと先生方は言われていました。そ

表1 2006年度 通信制カリキュラム

専攻	科目分野	授業科目名	単位	学期	教員名		
大学アドミニストレーション専攻（通信教育課程）	コア科目	高等教育論	2	春・秋	馬越 徹		
		高等教育・大学教育史	2	春・秋	寺崎 昌男※2		
		高等教育政策論	2	春・秋	山本 眞一		
		大学制度比較論	2	春・秋	潮木 守一※2		
		高等教育組織論	2	春・秋	土橋 信男		
		大学マーケティング戦略論	2	春・秋	船戸 高樹		
		データ解析論	2	秋	藤田 晃		
	専門科目	大学経営系	学校法人会計	2	春・秋	野田 秀三	
		大学教授職の国際比較	2	春	有本 章		
		高等教育の経済分析と政策	2	春	矢野 眞和	集中講義	
		大学法制論	2	春・秋	館 昭		
		大学財政論	2	秋	羽田 貴史		
		I T と 高 等 教 育	2	—	—	本年度休講	
		継続教育論	2	秋	山田 礼子		
		日米高等教育比較研究	2	春・秋	武村 秀雄		
		大学カリキュラム研究	2	春	田中 義郎		
		学費政策論	2	秋	田中 敬文		
		大学評価国際比較研究	2	秋	米澤 彰純		
		学生支援論	2	春	井下 千以子	集中講義	
		教育と研究のマネジメント	2	—	—	本年度休講	
		地域政策と大学	2	春	南 学		
		学生相談研究	2	春	岩田 淳子		
		通信・遠隔教育運営論	2	春・秋	鈴木 克夫		
		大学評価論	2	秋	早田 幸政		
		私立大学経営環境論	2	春	原野 幸康		
		大学と法的リスクマネジメント	2	春	高井 伸夫		
		大学職員論	2	春・秋	篠田 道夫		
		キャリア開発支援論	2	秋	角方 正幸他	集中講義	
		大学改革比較研究	2	春	高山 裕司		
学生募集戦略論	2	秋	滝 紀子				
大学と関係法令	2	秋	向井 孝次				
研究指導	6	春・秋	担当教員(※1)	1～2年次にかけて履修する			

研究指導を除く全ての授業科目は1学期で完結する。開講学期が「春・秋」となっているものは年間2回開講。

※1 馬越徹、鈴木克夫、武村秀雄、館昭、船戸高樹、田中義郎、野田秀三、寺崎昌男、潮木守一

※2 2007年度末（2008年3月）に退任されるので指導教員の選定の際には注意すること。

表2 2006年度 通学生カリキュラム

専攻	科目分野	授業科目名	単位	学期	教員名			
大学 アド ミ ニ ス ト レ ー シ ョ ン 専 攻 (通 学 課 程)	コア科目	高等教育論	2	春	馬越 徹			
		大学理念研究	2	秋	武村 秀雄			
		現代日本の大学改革論	2	秋	館 昭			
		現代アジアの大学改革論	2	秋	馬越 徹			
		日米大学制度論	2	春	武村 秀雄			
		欧州大学制度論	2	春	潮木 守一	集中講義		
	専門科目	専攻科目	高等教育政策論	2	春	山本 眞一		
			大学経営と政策	2	秋	山本 眞一		
			大学法制論	2	秋	館 昭		
			大学行政論	2	春	村田 直樹		
			大学・社会連携論	2	秋	村田 直樹		
			大学マーケティング戦略論	2	春	船戸 高樹		
			組織と人のマネジメント	2	—	—	本年度休講	
			大学財政基礎研究	2	春	西田 一郎		
			大学財政計画論	2	秋	西田 一郎		
			学校会計原理研究	2	春	野田 秀三		
			学校法人財務分析研究	2	秋	野田 秀三		
			学生リクルーティング研究	2	—	—	本年度休講	
			大学管理日米比較研究	(管理・運営)	2	春	諸 星 裕	集中講義
				(大学教員評価)	2	秋	諸 星 裕	集中講義
			大学生涯化の特徴と理念	2	春	瀬沼 克彰		
			大学生涯学習化の立案と実践	2	秋	瀬沼 克彰		
			マルチメディアと大学	2	秋	及川 昭文		
			教学支援特論	2	秋	高橋 真義		
			大学カリキュラム分析研究	2	春	田中 義郎		
			大学カリキュラム開発研究	2	—	田中 義郎	本年度休講	
			学生カウンセリング研究	2	秋	巖 岩 秀章		
			第三者評価と自己点検研究	2	秋	船戸 高樹		
			通信・遠隔教育論	2	秋	鈴木 克夫		
			大学eラーニング戦略論	2	春	鈴木 克夫		
			大学職員論	2	春	高橋 真義		
			高等教育システム論	2	春	館 昭		
研究方法論	1	春・秋	武村 秀雄 他	オムニバス 春・秋開講				
研究指導 I A・I B・II A・II B	各1	春・秋	担当教員(※1)	I (1年次) II (2年次)				

開講学期が「春・秋」となっているものは年間2回開講。

※1 馬越徹、鈴木克夫、瀬沼克彰、高橋真義、武村秀雄、館昭、田中義郎、野田秀三、船戸高樹、諸星裕

れから、実務的な内容の科目が多いこと、具体的には、船戸高樹先生、寺崎先生、山本先生。この地方の日本福祉大の篠田先生もそうだと思います。昔、名古屋にもいらしたそうですが、河合塾の滝先生とか、ベネッセにいらした高山先生。実務系の方が多いことが国立大学と違う点ではないかと思います。また、私立の特性、学生集めということ、潮木先生を筆頭に定年退官になったような功成り名を遂げた人が多いこと。専任スタッフの平均年齢は六十歳ぐらいではないかと思えます。

学位は、通学、通信ともに修士（大学アドミニストレーション）です。

入試

次に、入試選抜です。職場の推薦がある場合は書類審査ですが、私の場合、現役の職員として一般の社会人入試を受けました。研究計画書をA4で一枚出しまして、あとは面接のみでした。他に、課題図書による小論文と面接による入試は社会人の経験がない受験生が対象です。

ソーシャルネットワークングサービズ(SNS)ですか、桜美林の大学院の通信のものがありません、そこで先日行われた東京大学の入試問題のことが話題になっていました。非常に専門的な語句の論述と語学の試験が課されると

いうことで、桜美林の学生の間では「社会人では受かる人が限られるだろう。桜美林でよかった」という話が出ていました。東京大学はまた体制が違うかもしれませんが、選抜方法が全く異なります。

在学生

次に、在学生の特徴です。今回報告するに当たって、桜美林の事務局に「可能な範囲で統計的

なデータをいただけませんか」と交渉し、公開の許可をもらいました。県別、年齢層別の学生データ、それから、各年度の入学者です。表3にあるように通信の定員は四十名です。初年度は志願者が多くて、不合格を出したと聞いています。二年目以降、不合格者はほとんどいないようですが、四十名は超えている状態が続いています。

特徴としては、圧倒的

表3 入学者データ

	2004	2005	2006	計
入学者数	52	41	43	136
退学者数	1	1	—	2
2005年秋学期修了者数	32	—	—	32
2006年春学期修了者数	2			2
長期履修申請数	14	7	8	29
長期履修変更者数	4	2	—	6

表4 職業別

	私立 大学	国立 立大	大学 教員	教育 産業	その 他	計
2004年度入学者数	39	2	4	1	5	51
2005年度入学者数	33	3	1	1	3	41
2006年度入学者数	32	3		7	1	43
計	104	8	5	9	9	135
100分率	77%	6%	4%	7%	7%	100%

に社会人が多いことです。表4を見ると国立系の職員の方も若干おられますが、やはり私立大学の大学職員が多いようです。他には、民間企業の方、大学を出た後アルバイトをしているような方が若干いますし、今年は文部科学省の方もおられます。

表5の職業別年齢別学生数を見ていただくと三十代が一番多くて、それに次いで四十代。『カレッジマネジメント』一三三号に載っている東京大学、桜美林大学、立命館大学の研究センターを比較した報告を見ても、圧倒的に三十代が多い。桜美林大学の方はもう少し年齢の高い層もある程度いるだろうと予想されていたそうです。

表6は地区別学生分布です。これは三回生をあわせただ数ですが、非常に関東圏

表5 職業別年齢別学生数（2006年5月1日現在）

職業別 学科		教員		公務員		会社員・ 銀行員		個人営業 ・自由業		無職		その他		合計		合計	百分率	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
		職業別 年齢別 学生数	18～22歳															
	23～24歳					1									1		1	0.98%
	25～29歳					6	3								6	3	9	8.82%
	30～39歳	1	1	1		36	9								38	10	48	47.06%
	40～49歳					21	4								21	4	25	24.51%
	50～59歳	1		1		11	3								13	3	16	15.69%
	60歳以上					2	1								2	1	3	2.94%
	計	2	1	2		77	20								81	21	102	

が多い。これも桜美林大学の事務局の当初の予想が外れた点だそうです。関東圏でも通信を選択する方が多い理由として、通学制だと最後の授業が終わると九時を過ぎてしまい、非常に遅い時間になってしまうことも関係しているようです。桜美林の方でも便を図って、本校の町田ではなく、新宿のサテライトで授業をしているのですが、それでも仕事の関係で難しい。

表6 地域別学生分布（2004～2006年入学者）

	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島		
男	3	0	0	11	1	2	0		
女	0	0	0	0	0	0	0		
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川		
男	2	0	1	3	6	9	14		
女	0	0	0	3	1	8	1		
	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知
男	2	0	1	0	0	1	3	1	7
女	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山		
男	0	1	6	7	3	3	0		
女	0	1	1	2	4	0	0		
	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知
男	2	0	3	0	0	1	0	0	0
女	0	0	1	1	0	0	0	0	0
	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	
男	8	0	4	0	0	0	0	2	
女	4	0	1	0	0	0	0	0	

データは全て正規学生のみでカウント

学費負担で毎年一名ずつ通わせている大学もありますが、やはり業務との関係で通信にしてほしいという話だそうです。

やはり東京に近いということでしょうか、人口規模に比べて宮城県が多い。ただ、私の周りには福岡の方が多くて、九州の方は非常に活動的だという印象を持っています。関西は大学の数が首都圏に次いで多いので、ある程度数が多いようです。

東海地区は、愛知県が七名、岐阜県は三名ですが、懇親会や研究発表などで積極的に活動している人はさほど多くないようです。

また、勤務先による学費負担で派遣されている人もいます。聞くとところによると、希望者を募り、複数いたら選考になるとのことです。また、別の大学では、三分の一負担で毎年出すという方針のようです。

一方、立命館大学の研究センターの姿勢とはかなり違って、通信制には桜美林大学の職員がいません。通学制にもほとんどいない。これはどうも桜美林のカラーのようで、こういったところで勉強してもらい、どんどん他大学に移っていった方がいい。そのかわりよそから引き抜くという考えで、大学に行かせるという姿勢が欠如しているように思

います。普通に考えれば、四十名も定員枠を持っているので、埋まらないときは、一割二割自分のところの職員を行かせてもよさそうな気がするのですが、現実には学生が集まっているので、あえてそういうことをしたくないようです。

学習の進め方

特徴として学生は半期五科目までしか履修できません。二十五名以上は調整を行うということですが。昨年は、私も調整にあいまして、取れない科目がありました。それから、授業料は教材費を含めて半期で三十万円。それは、あくまで卒業最低単位として、三十二単位以上になると、教材費として一科目一万円を負担する形になっています。

まず、四月に履修登録をします。私は桜美林に行つて初めて知ったのですが、法律上、通信制の大学院にはスクーリングは必修ではないそうです。桜美林の場合は、スクーリングを重視するというよりスクーリングを看板にしているので、必修になっています。そして、日程の中から五科目まで選べます。ただ、アドバイザーからは「五科目は非常にきついですよ」と言われました。私は一年前期に四科目、二年後期に五科目取って、一応単位は全部いただけましたが、やはりしんどかったです。

四月の初めに登録すると、教材が四月の終わりごろに送られてきて、六月一日に一回目のレポートを提出します。そして、七月十一日に二回目のレポートの提出があります。一セメスターに四千字程度のレポートを二回提出します。それを出さないと、スクーリングに出られませんが、スクーリングに出ないと、単位が認定されないというシステムです。提出時期は同じですので、科目数が多いと大変で、直前になると、大学を休んでやっている人もいます。履修が決まると、スタディーガイドが教材と一緒に送られてきます。簡単なシラバスと配布教材、参考文献等が書かれています。配布教材のところに書いてある教材が送られてくるので、自分で勉強します。絶版になっているものはコピーでもらい、参考文献は必要に応じて自分で集めます。

潮木守一先生の授業ですと、第一講「伝統的な大学教育」から第十講までありますが、それぞれA4で一枚、長いものは一枚半にまとめられています。そして、最後にレポート課題が書いてあります。これは春学期に取りましたので、六月一日と七月十一日までにEメールで提出です。

一方、学習するときに困難なことが幾つかあります。まず、先生への質問などは事務局を通すことになっているの

で、先生によっては全然返答が来ないことがあります。地方にいと、参考文献が入手しにくく、非常にまれな紀要や絶版になっている文献は特に入手が難しくなります。私は二、三週間前に名古屋大学など大きな大学の図書館でコピーしました。桜美林の図書館が利用できるもので、送ってもらうこともできるのですが、時間もかかるし、郵送料も利用者が負担することになります。

また、科目によって違います。大体四千字程度のレポートを基本的にメールで提出します。スクーリングまでにコメントと百点満点の採点結果が送られてくるので、これが励みになります。ただ、あまりに達筆で読みにくい場合もありますし、全部同じコメントで明らかにコピーしていると思われるような場合もあります。

スクーリングは昨年度から新宿のキャンパスで行われるようになりました。これは必修です。設置基準としては必要ではないようですが、桜美林の場合、出席しないと単位認定されません。九十分授業で、コア科目は四コマ、その他の科目は二コマです。ただ、二コマだと、簡単な自己紹介、質問に対する回答と特徴点の整理で終わってしまいまずし、ペーパー試験をやる先生ですと、一コマ目は自己紹介、二コマ目は試験で終わってしまいます。

昨年度まではなかったのですが、今年から集中講義科目が設定されています。先生と接したいという学生の希望や、二十五人までと制限されているコメントを書くのは大変だという先生の都合など、いろいろな事情があるようです。スクーリング時間割の下に載せてあります。八月ですと三日間。字数が少ないレポート一回と授業が十三回あります。私は一個取りましたので、三日間行きました。私が出たものはペーパー試験もありました。集中講義科目以外のものはレポートの字数が多いし、回数も多いので、レポートをあまり書かなくても単位が取れるのではという理由で、関東に近い方の受講が多かったようです。

スクーリングの一番の意義は、全国から集まった仲間同士で交流できることです。桜美林の事務局でも懇親会を企画されます。知り合いをつくったり、熱心な先生だとゼミ生同士で連絡会をつくったりもします。

さらに、研究指導は、スクーリングの際に行われ、夏と一月の第二と第三の土日です。それ以外に先生によっては出張もしていただけます。例えば関西に五人いたら、先生が関西に来て研究指導をするという具合です。非常にまちなのです。これが好評のようです。

勉強以外の副産物として、こういったところで知り合い

ができる、例えば、現場で教員の作ったカリキュラムがおかしいと思ったときなど、「おたくではどうですか」という形で教えてもらえたりします。

学費について 学費は、入学金十万円、半期三十万円、同窓会費が一万円。二年間の学費は、入

学金を入れて百三十万円となります。長期履修をされますと、これプラスアルファということで、非常に安い額で三年間受講できます。教育訓練給付講座になっていますので、修了した後、失業保険に入っている人の場合一定額戻ってきます。

ただ、非常に人気のある非常勤の先生の片方の学期しか開講していない科目は受講生が集中することがあります。SNSで回ってきたところによると、ことしの後期、著名な先生が教えている学生募集戦略論や大学財政論、継続教育論といった科目はもういっぱいになってしまっているようです。

■ 私の経験からみた特徴

学習

では、経験から見た特徴をまとめていきたいと思えます。まず、レポートの作成が仕事の業務と重なる上、どのレポートの締め切りも同じなので、つい課題

がたまってしまうことがあげられます。自分の性格なんです、二回とも一夜漬けという科目がある一方で、非常に時間をかけてやれる科目もあります。

研究指導については、メールなどでの指導が、担当者によってまちまちであること。この辺は通学制や非常に人数の少ない名古屋大学や東京大学、広島大学と比べて劣っているところだと思えます。

また、スクリーングは経費が大変であるということがあります。その上、担当者によって、質問だけで終わってしまったり、一方的に聞くだけで終わってしまったりさまざまです。四コマあるコア科目はまだいいのですが、二コマの科目は非常に中途半端で、簡単な自己紹介と説明とテスト、あるいは、先生の解説で終わってしまうことが多いです。

学習以外の効果

大事なことは勉強だけではなくて、全国から集まる同じような立場の人と情報交換ができることです。例えば、自分の職場の場合には聞けないことが聞けたり、あるいは、ちんぷんかんぷんのことを的確に教えてくれる人がいたりといった多くのメリットがあります。

桜美林大学の特徴

三番目の特徴として、やはり桜美林の職員が通信制にはいないということです。これは自家培養中心ではなく、スキルアップのため、あえて外に出すという考え方があるのではないかと思われます。この課程をつくった目的である情報の共有化と職員の流動化を進めたいということもあるようです。現実に、通学一期の卒業生は関東圏で大学が多いということもありまして、その五〇%以上の人が大学をかわったそうです。

また、国立大学に比べて研究志向が薄いですし、ドクターに行く人も限られています。論文の質もさまざまで、玉石混淆といったところです。それから、名城大学、立命館大学との違いは、やはり自校の桜美林大学の職員で学んでいる方が目立たないことです。

■ 課題

修士課程を

修了した学生の

受け入れ先

まず、職員の能力開発のために課程がつくられているわけですが、勉強の仕方によって違うと思います。また、大学の職員に専門に意味があるかということ。また、大学の職員に専門

性は本当に必要なのか、すべての職員に必要なのか。それは大学院で学ぶことで身につくものなのか。また、職員の流動化。桜美林のスタッフ、専任の人たちは流動化が必要だと言いますが、現実には賃金体系や雇用形態、居住地区の問題があつて困難です。自分が辞めても、相手が採用してくれないと仕方がありません。

それから、若干名、博士課程へ進学したいという方がいるのですが、通信の博士課程はないので、ほかの大学へ行くこととなりますが、困難な面もあります。その点、国立大学ですと、進学して、さらに勉強を続けることが容易だと思えます。

修士課程で勉強する

価値はあるのか

最後に、ここが一番話題になっていくところですが、はたして授業料を払って行く価値はあるのか。

転職できるか。昇給に影響があるか。あるいは、大学側が定員を減らすときに、修士課程で学んだ経歴は影響するの。多分、正の相関関係は証明できないだろうと思います。結局、勉強する人の自己満足ではないかと思えます。ただ、これを積み重ねていくことは大学業界全体にとって意味があると思えます。

大学は

修士課程修了者の

大学職員を必要としているのか

そして、大学は修士課程を修了した職員を必要としているか。私の要としているか。私の同級生の方の論文にも

ありましたが、必ずしも意見が一致していません。修士は必要であるが、大学アドミニストレーション修士は必要だという人は割と少ないようです。ただ、必ずしも大学アドミニストレーション専攻ではない。ただか二年、そういったところで勉強したからといって、プロになれるとも限らない。それから、そういった人を雇っても活用できるかどうか。博士課程修了者は必要ではないという人が多数です。ただ、修士を取って勉強することに意味がないわけではないが、職場でその学歴を生かせなくて不満を持っているという現状も一部にある。結果的には、勉強する人の自己満足なのかなという気になってきました。

■ まとめ

将来の展望として、こうした修士課程が生かされるためには、修了者が活躍しなければいけない。そのためには、他の大学の卒業生も含めて、大学アドミニストレーション課程の草創期の一期生、二期生が活躍していかなければい

けない。だから、もう少し若い三十代の人に頑張っていただいて、評価を高めていかないといけないと思います。また、桜美林大学だけではなくて、名古屋大学や東京大学、広島大学といった大学との連携を打ち立てる必要があるでしょう。私たちは今、注目されているということです。

ある先生から「将来的に『大学あるところに大学アド修了者あり』といわれるようにしたい」と言われました。修士を取って、きちんと勉強した人がどの大学にも一人はいて、きちんと回っているというふうに作っていく。それがこういった課程を生かしていくことにつながるのではないか。そのためには、まず一期生、二期生が頑張らなければいけません。

